

# 棚田に吹く風

2013  
夏  
Summer  
季刊

## 2 特集

### 長い用水路のある棚田

#### 5 フォトエッセイ

棚田ごよみ二十四節気

#### 6 棚田・里山からのたより

富士山を眺める棚田

山梨県富士川町平林

#### 8 棚田番長

棚田⇄温泉案内所

#### 9 棚田博士は今日も行く

阪神・淡路大震災の震源地だった棚田

兵庫県淡路市長澤

#### 12 会員のひろば

#### 14 棚田ネットワークの

かつどうノート

スタッフのつぶやき

#### 15 Project Report



特集

# 長い用水路のある棚田



通潤橋の観光放水風景

水田稲作には大量の水が必要です。近くの川の位置が水田適地より低い場合、人々は川が土地よりも高くなる上流部まで遡<sup>さかのぼ</sup>って、水を引きました。山間を縫うように引かれている水路は山腹水路と呼ばれます。

水路の管理は、その水を利用する受益農家の責任。農家は「水利組合」を組織して、共同で維持管理にあたります。稲作が始まる前の江<sup>ざ</sup>浚<sup>い</sup>（秋～春にかけて水路に溜まった落ち葉や土砂を取り除く）、夏の草刈りなどは組合で一斉に作業します。また、大雨などで土砂が崩れて水路が埋まったり、倒木や折れた枝が水路をふさいだり、酷いときは崖ごと崩落したりする場合があります、その度に人足を出したり、改修の費用を負担します。水は一年中流れているわけではなく、稲が実つて水が必要なくなれば、取水口を閉じて水を止めます。昭和の終わりごろには、かなりの水路がパイプラインに置き換えられましたが、工事費がかかるため、今も昔のままに維持されているものもあります。

高齢化・過疎化で戸数の減った地域では、地元耕作者だけでは水路の管理が出来なくなっています。耕作をやめたり近郊の都市へ移住した農家が、春の水路掃除だけは戻ってきて参加する例もあるそうです。

# 通潤用水

熊本県山都町

熊本県の重要な文化的景観「白糸台地」。ここは断崖で囲まれたテールマウンテンを想起させる台地で、この台地は他に類例をみない大規模で巧妙な水利により棚田が拓かれています。水利は上流の笹原川から取水し通潤橋を渡る上井手とトンネルを駆使した下井手で構成されています。

通潤橋まで水路幅約2km、延長約6km、高低差約12mで山の等高線に沿いに用水路が築かれています。百六十年前の江戸後期に藩の命を受けた布田保之助が開発に当たりました。笹原川取水は白糸台地と笹原地区用の合同取水のため配分をめぐる争いが絶えず、その対策として昭和31年に白糸台地と笹原地区の比を7対3で配分する円形分水器が設置されました。



円形分水器

〔通潤用水ルート図〕



上：新緑の用水路／下：堰浚いボランティア  
※この地域には、他にも大林堰、九か村堰などの長い用水路がある

# 本木上堰

福島県喜多方市山都町  
本木・早稲谷地区

早稲谷川の取水口は標高318m、終点近くの小谷地の標高が305m程度。6kmの長さに対して13mの標高差しかなく、ほとんど水平に近いといえます。U字溝の部分もありますが、半分ぐらゐは素掘りの土水路で、開削当時の姿そのままと見られています。記録では1747年に完成したそうです。全区間を48に区切り、それぞれを「丁場(○号丁場)」と呼びます。上流に当たる早稲谷地区では一丁場の長さは平均106m、下流に当たる本木地区は平均126m。違いがあるのは、上流側の方が土手が高かったり落ち葉や土砂の量などで、

作業がより大変だからだそうです。受益者は、分担して丁場を担当します。堰守と呼ばれる水利組合長は維持管理の一切を取り切ります。組合員すべての田んぼの位置や面積を把握し、定期的に水路を見回り非常時には人足を集めて采配し、争いごとを調停し、役所と交渉する等々。

1969年に50軒以上あった受益農家が時代とともに半減し、堰浚いの負担が深刻化してきたため、2000年から一番大変な春の堰浚いにボランティアを受け入れるようになりました。初年度の7人を皮切りに、現在は50人近くが参加するようになっています。



## 大山用水路 ほか 新潟県 糸魚川市

6つの用水路は、江戸時代末期から昭和初期にかけて開削されました。ECHIGO 棚田サポーターや新潟大学などの学生が水路ボランティアに参加。地元からはパイプ化の要望が出ていますが、費用の関係もあり、順次計画中です。

大山用水路	水路の開削時期は天保8年(1837)から弘化4年(1847)。開削当初の水路延長は不明。現在の水路延長は10 <sup>キ</sup> 。
西側用水路	水路の開削時期は明治21年から30年。開削当初の水路延長は27 <sup>キ</sup> 。現在の水路延長は18 <sup>キ</sup> 。そのうち隧道が8ヶ所あり、隧道延長は3・2 <sup>キ</sup> 。
東側用水路	水路の開削時期は明治23年から38年。開削当初の水路延長は32 <sup>キ</sup> 。現在の水路延長は22 <sup>キ</sup> 。そのうち隧道が6ヶ所あり、隧道延長は3・9 <sup>キ</sup> 。サイフォンは1ヶ所。
釜沢用水路	水路の開削時期は明治25年から大正7年。開削当初から現在も水路延長は10 <sup>キ</sup> 。
来海沢上江用水路	水路の開削時期は明治25年からで竣工は不明。開削当初から現在も水路延長は3 <sup>キ</sup> 。
水尻用水路	水路の開削時期は昭和初期。開削当初から現在も水路延長は0・9 <sup>キ</sup> 。

## 青鬼上堰 あおにうわげき 長野県白馬村 青鬼地区

水路は万延元年(1860)から4年間かけて開削されました。上堰約3<sup>キ</sup>、下堰は約2<sup>キ</sup>の長さ。岩盤を削った隧道には今もノミの跡が残っています。堰普請と呼ばれる水路清掃は毎年4月29日頃。ここ10年ほどは地元農家や行政関係者のほかにボランティアも参加するようになり、30人ぐらいで行われます。地域では古代米の「紫米」を栽培したり、田植えや稲刈りイベントを開催するなど、全体で集落維持に取り組んでいます。



## 山越井手 やまごえいで 鳥取県岩美町 横尾地区

室町時代に開削されたといわれる山越井手は、長さ約3<sup>キ</sup>(以前は4<sup>キ</sup>ほどでしたが、昭和40年頃に谷の部分をサイホンにしてから短くなりました)。等高線に沿って掘られ、素掘りのままのところとU字溝を入れたところがあります。地域では棚田のオーナー制度を実施。30組のオーナーの8割近くは、春と夏の2回の水路清掃にも参加します。NPO法人学生人材バンクからも参加者がおり、計50〜60人で、昼までに終わるとのこと。昔20軒ほどあった関係農家が今は8軒に減ったため、とても助かっているそうです。



## 大門ため池 島根県雲南市 山王寺地区 山王寺の棚田 (日本の棚田百選)

この地区には3つの大きなため池と、ため池から棚田へつながる水路があります。水路一本の長さはそれほど長くはありませんが、水路が多様に引かれているので、合わせれば結構な長さになります。地域では「田んぼの学校」を開催して田植えや稲刈り体験を実施するほか、今年初めて水路ボランティアを募集し、保全に取り組んでいます。



### 協力

本木・早稲谷堰と里山を守る会  
糸魚川農林振興部  
NPO法人学生人材バンク  
水士里ネットしまね



棚田ごよみ  
二十四節気

写真・文青柳健二

大暑

たいしょ

梅雨も明けた七月下旬は二十四節気の「大暑」で、次候が「土潤溽暑」になる。名前からして暑さが最も厳しくなり夏本番を迎える。7月は稲が一番生長する大切な季節でもある。棚田のあぜ道を歩くと、息をするのも苦しくなるほど緑が濃くて、稲がずんずんと伸びているのが肉眼でわかるのではないかと思えるくらいだ。植物の力強い生命力を感じる。稲の花が咲いたあとは、実に養分を蓄えていく。「あく暑い」と文句を言いながらも、頭の片隅には冷えたビールやかき氷が浮かんでいて、まんざら嫌いでもない季節なのだ。



宮崎県高千穂町  
尾戸の口の棚田(上)  
徳別当の棚田(下)



青柳 健二 Profile

1958年、山形県河北町生まれ。山形大学工学部卒業。日本を含むアジア各地の稲作文化、とくに棚田とそこに暮らす人々を撮影し、新聞、雑誌、写真展で発表。主な著書は『日本の棚田百選』(小学館)、『棚田を歩けば』(福音館書店)、『花咲(わら)う』(廣済堂出版)など。2012年には棚田ネットワークの旧暦棚田ごよみ製作に全面協力。  
<http://www.aoyagikenji.com>

棚田・里山  
からの  
たより



## 富士山を眺める棚田



上：平林の棚田／下左：オーナーの田植え／下右：中学生の田植え

山梨県南西部、標高800mの檜形山の中腹に、富士川町平林はあります。真正面には富士山、背後には南アルプスの前衛・櫛形山。そこからのきれいな湧き水が流れる、面積10畝ほどの小さな棚田です。

### 平林活性化組合の設立

平成14年6月に、棚田と農地と景観を守るために平林住民125軒全戸加入で「平林活性化組合」を立ち上げ、活動を開始しました。

すばらしい自然を生かし、訪れる都市住民との交流、憩いの場として、拠点となる施設「平林交流の里みさき耕舎」を、中山間地域総合整備事業「巨摩の郷地区」で、国・県・町・地元の負担で建設しました。

### 農業体験

「うわっ冷たっ。ぬるっとする」  
「マジ、気持ち悪いし」  
「本当にドロドロだ。沈む」

### 山梨県富士川町平林

田植え体験にやって来る東京の中学3年生の男子200人の足を田んぼの中に入れた時の第一声です。

組合が発足し、食体験、畑の体験を始め、翌年棚田のオーナー制度を開始しました。初年度は11グループで100人ほどを受け入れました。たいしたPR活動はしていません。ホームページへの掲載、棚田ネットワークへの掲載、問い合わせ・口コミへのダイレクトメール発送で25グループ、90%ほどを組合で管理しています。毎年リピーターが三分の二はいます。同じ田んぼで、同じ指導者でと、人と人のつながりも深まっています。

しかし問題も出てきました。都会の人が望む体験は、面積は小さくて、値段も安いところ、少し土と触れ合えれば、ちよつとだけみづくりが出来て食べられれば良いのです。当組合が管理するのは、元からある形で農家が耕作出来ない田んぼをオーナー制度としてい



上:下の段なら届くよ!  
中:鎌で稲を刈る  
下:今年も豊作です!

### ■ 棚田へのアクセス

【公共交通】 JR身延線「鯉沢口」下車。タクシー利用(約20分)

【自動車】 国道140号線または中部横断自動車道「増穂IC」利用。IC前交差点より県道413号線経由で7km(約15分)

### ■ お問い合わせ

平林活性化組合 みさき耕舎  
Tel.0556-22-0168



る為、大きい面積のものはオーナーがつきませんでした。そこに中学生の体験の話があり、田植えだけの体験ですが、平成20年よりお引き受けする事にしました。それから毎年、中学三年の男子が大型バスでやって来ます。指導する側も大変です。稲苗を投げて遊んでしまう生徒に、大声を出し、お米作りの大変さ、大切さを教えています。作業が終わると、具もない、海苔もない真っ白なおいしいお米のおにぎりを食べてもらいます。

学校へ帰っても、お渡しした苗をバケツで育て、秋の学園祭には、平林から送る稲穂とバケツの稲穂を展示するそうです。

### 今後の平林

「組合で田んぼを作ってくれないか」と農家の方から話があります。今まで頑張ったが、高齢、後継者不足、有害鳥獣の被害も後押しをしているのでしよう。これはどここの中山間地でも同じ悩みを抱えていると思います。当組合も管理が追いつかなくなっています。どうしたらよいか? もうすぐ富士山が、世界文化遺産として登録されようとしています。この地にもカメラマンが大勢来ます。棚田と富士山をカメラにおさめ

られる場所だからです。報道後には2〜3倍の人数に増えています。マナーの悪さも棚田の景観をこわす一つです。よい写真撮りたさに、農地に入り土を踏み、田んぼの畦をくずしてしまっ、ごみを捨てるなど。棚田は見るのも良いですが、本来おいしいお米を作る場所なので、

富士山を眺めながら農作業が出来る田んぼをこのまま継続していく事が今の私達の責任です。組合はもちろんです、平林住民一人一人が考えていかなければなりません。



みさき耕舎から見た富士山と雲海

# 棚田番長

山形県村山市  
中沢棚田保全会 代表  
鈴木忠司 (63歳)

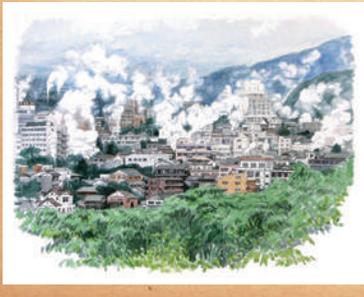
「標準語はしゃべらんね」から、昨年7月号の『里山だより』は村山弁で書いた。肩書きは「田んぼボーイズ代表ボーイ」。名刺の似顔絵では右手に犬の綱・左手になめこを持ち、さくらんぼと「天日干し棚田米 背炙りの詩」というブランド名も添えられている。販促で仙台や東京へ行ったり、行政と掛け合って直売所の設置を認めさせたりと奮闘しつつ、「メンバーが外へ出たがんねえ」「資金はあっても、それを形にする知恵と技術が無え」と嘆く。田舎移住希望者の「自然の中でそこそこ暮らせればいい」という風潮に「俺はそこそこではいやだ。人より少しでもいい暮らしがしたい。(野菜より)肉が食いてえ」と言い切るパワーが気持ちいい。



## 棚田↑↓温泉案内所

全国のベスト・カップルな棚田と温泉をご紹介します！

第二回 大分、別府温泉の奥に広がる内成棚田



写真・イラスト：© ITO DESIGN OFFICE & Terukazu Ito

平安末期からつくられ始めたと言われる大分県別府市内成の棚田は、面積約40ヘクタール。1400枚の田んぼで耕作されています。南向きの斜面に広がる地域を水田にした先人の慧眼には、みはるべきものがあります。それでも最近の地球温暖化現象のせいなのか、人の心の貧しさなのか、みんなて十分に使っていた水路の水が不足することが多くなっています。

この田んぼで85歳を超えて、まだまだ田んぼを作ってる人もいます。早く後継する方が現れればと思わずにはいられません。

この内成棚田から自動車で約15分も走れば、世界第一位の泉源数、第二位の涌出量を誇る「別府温泉」の中心地です。別府市内には8カ所の主要な温泉地があることから「別府八湯」と呼ばれています。温泉の種類は放射能泉を除く10の泉質があり、市内に400箇所ほどある温泉施設ごとに異なる温泉を楽しむことができます。温泉の違いを体験してもらいたいと「別府八湯温泉道」というスタンプラリーも行われています。

この特徴を活かせないかと、今年には温泉のお湯で消毒した米作りにも挑戦しています。棚田の風景を観て、棚田のお米を食べ、温泉に入るといって、至福の時間を内成棚田で過ごしてみませんか。

問い合わせ先 後藤幸彦  
080-5202-0863

棚田博士  
は  
今日も行く!

中島峰広の  
全国棚田行脚

## 阪神・淡路大震災の震源地だった棚田

兵庫県淡路市長澤



なかしま みねひろ  
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO  
法人棚田ネットワーク代表。全国棚田  
(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミッ  
ト開催地選定委員会委員長。1933年  
宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地  
歴科卒。2004年まで早稲田大学教育  
学部教授。著書に『日本の棚田—保全へ  
の取組み』『百選の棚田を歩く』『続・百  
選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以  
上、古今書院)。現在、百選外の棚田に  
ついての執筆準備のため全国行脚中。



兵庫県淡路市は、阪神・淡路大震災の震源地となった淡路島の北部にある。平成の大合併で島は北部の淡路市、中央の洲本市、南部の南あわじ市に3分され、北部の淡路町・東浦町・北淡町・一宮町・津名町の5町が2005年4月に合併して淡路市になった。長澤は、淡路市の南部、島の中央部標高200〜250<sup>メートル</sup>の丘陵地にあり、津名の奥座敷と呼ばれている。淡路島を代表する長澤の棚田については、棚田一郎を自称する棚田学会の理事・今井英輔さんの情報によるものである。

### 明石港からフェリーで淡路島へ わずかな間の船旅を楽しむ

2013年3月、淡路島長澤を訪ねた。本土から淡路島へのアクセス

は、明石海峡大橋の完成後神戸三ノ宮発の高速バスを利用するのが一般的であるが、あえて旧来のルート明石港からフェリーで渡ることにした。JR明石駅前から海岸へ向かう道を直進、橋の手前で右折すれば200<sup>メートル</sup>ほど先にフェリー乗り場がある。フェリーは、早朝5時から23時台まで1時間に1〜3本の便があり、明石海峡大橋を見ての乗船時間は13分、わずかな間だが船旅を楽しめる。

上陸地の岩屋港からは1日12便(縦貫線)、淡路交通の洲本高速バスターミナル行きのバスが連絡している。バスは、大阪湾に臨む海岸線に沿う国道28号を南下、40分ほどで長澤への入口生穂<sup>いけほ</sup>に到着する。交差点を右折、生穂川に沿って山へ向かう県道123号をしばらく

進むと、標高30<sup>メートル</sup>付近で生穂川を渡る。ここからは長い坂道、野田尾北の集落辺りから道は一段と陰しさを増し、標高260<sup>メートル</sup>の日遣<sup>ひやり</sup>峠に達する。その名は浜から峠まで上がつてくると、ひやりと感じたからという説があるが、真偽のほどは定かでない。峠を越えれば長澤の里山である。

### 瀬戸内型の雨の少ない気候 灌漑水は溜池を利用

長澤は、丘陵地を刻む谷間に長澤北・長澤上・長澤南・長澤西下・長澤西上・東山寺の6集落が分散人口約250人、戸数110戸、水



1・2：長澤の棚田／  
3：歩行式田植機で  
田植えをする農家／  
4：灌漑用の溜池（細  
子池）

田100畝のうち耕作されているのはその半分以下、高齢化率49%といわれる中山間地域。棚田は、これら集落の谷間を埋めるようにして分布、瀬戸内型の雨の少ない気候と高い山がないため、灌漑水を溜池に依存する。このため、淡路島では大小の数多くの溜池がみられる。散策マップによれば、県道123号から左折して東山寺に向かう市道沿いに棚田のビューポイントがあり、なかでも①細子池付近の長澤上・長澤北・長澤南に囲まれた地区、②長澤会館付近の長澤南と長澤西上間の地区、③大師堂付近の長澤西下地区の3か所の景観が優れているとしている。

大師堂付近の棚田は、三者のなかで最も規模が大きく景観も優れている。東山寺から流れ出す田尻川の左右両岸に十数段の棚田がそれぞれ数列ずつ向かい合っている。左右両岸の法面が異なり、左岸が石積み、右岸が土坡である。

右岸の棚田を所有する柿原博さん74歳によれば、第二次大戦後80㍓、85枚あった棚田を数回にわたって業者に頼んで畝町直しを行ってきただ。現在半分の40㍓、10枚を耕作しているというから、1枚が平均4㍓。棚田としては比較的面積が大きく、それだけ土坡が高く、5㍓もあると上下から草刈りを行う必要がある、大変だと仰っしゃる。

### 自称「元気な高齢者」たちが 集落を支え地域の活性化を担う

長澤工口島民センターで地域の活

性化に関わる元気な高齢者と自称する人たちに会うことができた。グループのリーダー格仲野孝夫さん67歳は、東洋大学を卒業後、地元の信用組合に勤務、60歳の定年まで棚田80㍓を所有する兼業農家であった。現在自身は農業専従者、母親92歳、妻60歳の3人家族。奥さんは医療事務の仕事をしているそうだ。トラックター20馬力、歩行型2条田植機、2条刈コンバインなどを所有し、棚田30㍓、9枚を耕作、休耕している棚田も草刈りは行っているという。

信組の職員だったキャリアを買われ、農家43戸、対象面積31・78畝の中山間地域等直接支払、農地・水・環境向上保全対策事業、ほたる・鳥・植物の観察会をひらく長澤工口ツーリズム推進協議会などの事務局を

担当。そのほかに、小学校区を単位とする地域活動を支援する予算1300万円の県民交流広場事業、具体的には公民館の改修を行った事業の会長、集団で動噴を用いた農業の布を行う営農組合の組合長、谷田池の樋門の開閉を行う田主代表を務めている。淡路島では溜池の受益者のことを田主と呼び、4〜5つの池の田主になっている人もいるそうだ。

さらに、長澤ミニバス運行委員会の委員兼運転手でもある。これは、2002年に始まった長澤地区と10ヶ離れた志筑の市街地間をコミュニティバスで結ぶ取り組みであり、運転手の日当3000円を払うため110戸の世帯が1世帯当たり年間1万円を負担、市の補助金50万円前後を加え運営されている。バスは、日曜・休日を除き東山寺山門前と志筑の間を1日4〜5往復、4人の運転手により運行される。したがって、仲野さんは月に6〜7日運転手を務めなければならない。そのうえ他の役職の仕事も抱えているのでかなりハードなスケジュールになる。奥さんに「勤めていた時より忙しくなったが、生き生きとして楽しそうだね」と云われたそうだが、笑いながらも

納得している顔であった。

藤田進さん72歳は、定年まで津名エレクトロニカに勤務、棚田70㍎、30枚を所有する兼業農家であった。現在は35㍎、15枚をトラクター16馬力、歩行型2条田植機、2条刈コンバインで耕作する農業専従者。農地・水・環境向上保全対策事業の代表を務めているそうだ。

鈴木隆義さん68歳は、定年まで志筑の生コンクリート会社に勤務、棚田70㍎、30枚を所有する兼業農家であった。現在は35㍎、13枚をトラクター18馬力、歩行型2条田植機で耕作する農業専従者。バインダー、ハーベスターを用いハサ掛けにして収穫、美味しい米を縁故者に届けているとのこと。中山間地域等直接支払の代表、県民交流広場事業の副会長、営農組合・長澤エコツーリズム推進協議会の会計を務めており、仲野さんのよき相棒になっている。

坂本孝夫さん72歳は、藤田さん同様定年まで淡路交通に運転手として勤務、棚田150㍎を所有する兼業農家であった。現在は自作地150㍎のほか隣家と親族の棚田105㍎を水利費のみの負担で耕作する農業専従者。耕作する棚田が分散してい

るため5つの池の田主でもある。家族は妻70歳、病弱の弟63歳、市役所に勤める長女の4人であるが、自身と奥さんの2人が農作業に従事している。トラクター25馬力、乗用型4条田植機、4条刈コンバイン、乾燥機、ユンボなど大型機を所有する精農家。ユンボは震災後に中古を100万円で購入したそうだ。

坂本家は孝夫さんが四代目、初代が分家で田圃が少なく貧乏だったのを二代目が行商をして頑張り広げてくれた。その田圃を私の代に放棄することなどできないので、作りやすくしているのだと仰しやり、ユンボとキャリアを使って、独力で3㍎、3㍎、10㍎の3枚の棚田を1枚にする畝町直しを行っていた。

二代目に劣らない働き者で、他人より多く棚田を耕作しているし、ミ



左から仲野さん、鈴木さん、藤田さん。  
自ら“元気な高齢者”と笑う

二バス運行委員会の会長であることも運転手でもある。そのほか、細子池田主代表、営農組合副会長、農地・水・環境向上保全対策事業の会計も務め、ほかの元気な高齢者と協力しあっている。

このように、長澤では地元の企業に職を求め兼業農家になった長男たちが退職後、農業専従者になり、元気な高齢者と自称し、集落を支える組織や取り組みの三役(会長・副会長・会計)といわれる役員を協力して務め、過疎高齢化した集落に活力を与えているのである。

### 長澤棚田へのアクセス



【公共交通】神戸三ノ宮発五色行き高速バス(姫神バス)乗車。北淡ICバス停下車、長澤地区まで徒歩約1時間

【自動車】高速道路北淡ICから県道31号、県道463号經由で長澤地区へ6km(約15分)



元気な高齢者の一人・坂本さん

## mixひとびと tango 2013

京都府京都市 古川 玲子



日本海に面した美しい袖志の棚田

新緑の美しい5月下旬の6日間、京都府北部の丹後半島では「mixひとびと tango 2013」（略称ミクタン）が開催されました。ミクタンは「自由に丹後を歩いて、ひと・もの・自然や風景との出会いを楽しもう。地元の人も旅人も一緒に、ゆったりとした時間を過ごしたい」と5年前から始まった地域交流イベントです。地域のひとびとが自宅・工房・お店・庭などを一斉に開放し、オープンハウス形式で訪問客をもてなします。今年は「愛」をテーマに45軒のホストが参加、約3000人が新しい出会いやふれあい、発見を楽しみました。

ミクタンに参加した京丹后市丹後町袖志の棚田では、田植えと書初めコンテストが行われました。日本の棚田百選に選ばれた袖志の棚田は、山の斜面から海まで続く棚田がとても美しいことで有名です。しかし、最近では休耕田も増加していて、地元住民が袖志棚田保存会（平井貞雄代表）を立ち上げて保存に取り組んでいます。この日は、都市部からの応援の学生も含めて80人が参加し、田植えで気持ち良い汗を流しました。その後は袖志の棚田への「愛」を書初めスタイルで綴る書初めコンテスト。最優秀作品【最も棚田への愛を感じる作品（MTL: Most Tanadable Love）】に選ばれたのは、手のひらと足の裏で書かれた「米」でした！

今年は、私もミクタンにホストとして初参加。企画名は「丹後の穴」です。丹後半島には山の



左：書き初めコンテスト／右：丹後の穴

斜面に穴を掘ってサツマイモなど食糧の貯蔵庫に使う風習があります。その穴の中を会場にしました。穴の持ち主から断られたり、穴に住むカマドウマ(虫)を退治したり、準備は大変でしたが、後輩や丹後の皆様の温かい応援のおかげで、一畳半ほどの小部屋が4つもある奥深い穴はランプとキャンドルでライトアップされておしゃれに大変身。パン屋さん特製の穴のあいたドーナツや、穴から湧き出る水でお客をおもてなし。友人の農家さんが穴の中で飛び入りコンサートをしてくれて大好評。大勢のお客から穴の思い出を聞かせてもらって至福のひと時でした。素敵な機会を与えてくれたミクタンに感謝！

他にも、オープンガーデンや、酒蔵を開放して一夜限りのバーとなる蔵舞bar、味噌醤油屋さんのしょうゆ麹づくり体験など、おもしろい企画がたくさんありました。棚田に吹く風の読者の皆様も来年はぜひ丹後半島へ、ミクタンを遊びに来てくださいね。お待ちしております！

HP <http://www.mixtango.com/>  
Facebook <http://www.facebook.com/mixtango2013>

# 会員のひろば



## 会員の声募集!

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください！「ご要望、感想やご質問でもOK！」（会員の声800字まで、会員レポート400字まで。写真も添えて）  
〒160-0003 東京都新宿区西新宿7-1-181-16  
トーションハイム七〇四号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛  
メールでも受付ています ↓ [hiroba@tanada.or.jp](mailto:hiroba@tanada.or.jp)

## 会員レポート

### 「金山棚田を守る会」の活動

東京都東村山市 高野 光世

岩手県一関市唐ノ子（とうのこ）にある金山棚田。42坪の面積の中に100枚以上の田があり、所有者の金山孝喜さん（75歳）が一人で耕作しています。小型の機械もほとんど入らないため、使うのは昔ながらの道具：手馬鍬（てまがくわ）（代掻き）、いぶりおし（いぶりおし）（田均）、ささら（ささら）（線引き）、除草機など。

この景観を守りたいと、一年ほど前に近隣住民が中心となり「金山棚田を守る会」（会長：千田浩さん）が結成されました。一関市の助成を受けて資材を購入し、メンバーが特技を生かして、案内看板や展望デッキ、駐車スペースなどを整備。6月9日（日）はその完成報告会で、行政の関係者や報道機関も大勢訪れていました。

一関市には「みちのくあじさい園」があり、田んぼの周りにも金山さんの手でたくさんのアジサイが植えられています。夏の草取りが大変な時期に、アジサイの花を見てホッとされていたのでしょうか。

※facebookにこの会の情報が載っています。登録している方は検索してみてくださいね。



手前に重なっているのがいぶりおしとささら

# 棚田散歩

タイ  
チェンマイ



■フォーシーズンズ リゾート チェンマイ  
<http://www.1.fourseasons.com/jp/chiangmai/>

癒しの棚田リゾート  
タイのチェンマイに、棚田をモチーフにした高級リゾートがある。朝もやの棚田を見下ろしながらの朝食、棚田につきだした東屋でのヨガ。タイの農作業に着替えてリゾート内の棚田での田植え。のんびり引かれてゆく水牛を遠くに眺めて午睡。そして庄巻は、棚田の中に棚田と同じ高さに作られた静かなプール。このプールに体を沈めると、眼前に迫る稲穂の目線で、棚田全体とその上に広がる青空を同時に見晴らすことができる。

ここの風景は、アジア人にとっては郷愁をそそる原風景、欧米人にとっては異国の風景であろう。このかくれ里に世界中から人が集まる。そして、しばしこの棚田の風景に身を置き、癒されて、また日常に戻ってゆく。

このリゾートは、棚田の癒し効果が国や地域を超えて普遍的であることをあらためて教えてくれる。  
(神奈川県横浜市 阿久澤 剛樹)



## 編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



2012年/ドイツ/98分/監督:ファティ・アキン  
/配給:ピタース・エンド/8月17日(土)よりシ  
アター・イメージフォーラムほか全国順次ロードショー

### トラブゾン狂騒曲〜小さな村の大きなゴミ騒動〜

トルコ北東部トラブゾン地域の小さな村チャンプルヌ。この美しい村にゴミ処理場が建設されることに。ビニールシートで土への汚染を防ごうとしたり、素人が見ても溢れてしまうとわかるほど、小さな汚水処理槽を作ったり、あまりにも「ずさん」過ぎる政府の計画。そんな役人たちと立ち向かう住民とのやりとりは、真剣ながらも時に滑稽で、思わず笑ってしまう。監督が5年をかけて完成させた、渾身のエコロジカル・ドキュメンタリー、必見です!



山下祐介 著  
¥880 (税別)  
ちくま新書  
2012年1月

### 限界集落の真実―過疎の村は消えるか?

「限界集落問題」が提唱されているが、実際には自然減のみの理由で放棄されてしまった集落はほとんどないことを著者は指摘。限界集落と呼ばれる地域に深く取材し、人口動態など統計上の数値だけでは見えて来ない「限界集落」の実態を明らかにする。高齢化している、近隣の都市に居住し、週末だけ手伝いに来る長男の存在など、家族・親族ネットワークの役割にも着目。集落再生には、行政が用意するメニュー方式ではなく、集落自身が主体となって取り組み、周縁の集落や都市的地域を巻き込むことが重要な鍵となることを強調している。

棚田ネットワーク定期総会 & 春の講演会「棚田を語る」開催

4月27日、新宿のエコギャラリーにて定期総会と、春の講演会「棚田を語る」が開催されました。総会では活発な意見が飛び交い賑やかだったのが、講演会が始まると一転、皆さん静粛に、時折笑いを交えながらも真剣に聞いていらっやいました。

講演は①「棚田保全活動の先進地に学ぶ」②「雪形に見る棚田と農事」③「日欧交流に参加して」といった三部形式で開催。①は当会代表の中島に加え、岡山県の英田上山棚田で地域おこ

2013年4月27日 報告 内田 千鶴  
し協力隊として活躍、現在も都内の大学と岡山を夜行バスで往復する日々を過ごす水垣大地さんにも登壇頂き、現地での取り組みについて熱く語って頂きました。②では棚田の絵描きでおなじみ酒井氏が雪形と農事暦の関係性について多くの写真を用いて解説。皆さん、目を凝らして写真の中の雪形を探していました。③は日本の棚田米が海外へ?!とのことで、当会事務局が3月に訪欧した際の報告。詳細は春号にも載っていますので是非ご覧下さい!



棚田ネットワークのかつどどうノート



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

棚田に2〜3週間滞在して、農業のいろはが学べる体験ツアーがあれば、参加者は田舎暮らしと農業を楽しみながら、地元の力になれるかもしれません。課題はまだまだ山積みですが、実現した暁には、皆様のご参加をお待ちしております!

一方で、最近の旅行業界の流れの一つとして、知的好奇心旺盛な団塊世代をターゲットにした、東北の震災復興応援ツアー、ボランティアリズム(旅行をしながらボランティアをすること)、一都市に長期で滞在するツアーなど、テーマ性の高いツアーの需要が伸びてきているのは確実なので、棚田体験ツアーも興味をもってもらえるチャンスはあるはず。

さて、私は普段某旅行会社で海外ツアーの企画や添乗などを行います。アジアや南米方面の企画が多いのですが、休日にはもっぱら棚田ツアーの構想を練っています。都会に暮らす人たちに棚田がもっと身近になるよう、棚田を素材にしたツアーを作りたい!と思っっているのですが、実際に会社に企画提案をしてみると、農業体験ツアーは利益が薄いという旅行会社の考えや、生活の場を邪魔されたくないという地元の思いが障害となって、なかなか形にできません。

5月から棚田ネットワークの事務局でお手伝いをさせて頂いております。GREENです。2007年から参加している静岡県賀茂郡松崎町の石部棚田のオーナー制度の活動をおして棚田ネットワークを知り、お世話になることになりました。今後は事務作業のお手伝いや、石部棚田プロジェクトの運営に積極的に参加していきたいと思っております。で、宜しくお願いします。

スタッフのつ・ぶ・や・き <輪番制>



今回のつぶやき人 事務局 GREEN

## 栃木県茂木町

### 茂木プロジェクト

#### ホテルの季節になりました



5月11日、人生初の棚田での田植えを経験してから一か月半経った6月29～30日、ホテルとハッチョウトンポに会いに再び茂木を訪れました。29日の予報は雨でしたが天気もそこまで悪くならず、沢山のホテルが飛んでいました。翌日は1匹だけでしたが、ハッチョウトンポにも会うことができました。教えてもらわないとどこにいるかわからないほど小さなトンポでした。

棚田では他にも田植えの頃には見られなかった野の花や生き物を観察できました。5月に植えた稲は遅く育っていて感動しました。9月14日に予定の稲刈りが今から楽しみです。

今回も小林さん、矢野さんはじめ地元のみなさまに大変お世話になりました。地元食材のご馳走、たくさん頂きました。ありがとうございました。

(氷見山 清子)

## 岐阜県恵那市

### 棚田ビオトープ プロジェクト

#### 棚田ビオトープの田植え



「第6回かえるの卵を探そう!」が3月24日に開催された後、追調査をしました。その結果、ヤマアカガエルの卵塊は11ヶ所で135卵塊が見つかりました。昨年は19ヶ所で78卵塊でしたので、個所数は減、卵塊数は増、減ったのか増えたのか?

棚田ビオトープの田植えを6月3日におこないました。NPO法人恵那市坂折棚田保存会の田口会長からご挨拶と坂折棚田についての説明を頂き、田植え開始。棚田オーナー制度の田植え開催日に参加することが出来なかったオーナーが、中段の棚田ビオトープの半分を田植えをしたので、今年は、残りの半分と上段の棚田ビオトープの田植えを岐阜県立国際園芸アカデミーの学生さんなど23名でおこないました。天候も良くにぎやかな田植えでした。

(相田 明)

## 静岡県松崎町

### 昔ながらの米づくりプロジェクト

#### 畦つけ～田植え～草刈りと大地曳き網まつり



4月28・29日に畦つけ、5月11・12日に田植え、そして7月6・7日に草刈りを行いました。草刈り作業は地味な作業の上、暑い季節なので、去年は人が集まらずスタッフだけで行いましたが、今年はなんと17人も集まりました。

なぜ? 実は2日目に石部集落で3年ぶりに復活した「大地曳き網まつり」への参加をイベントに組み込んだからです(笑)。1日目の作業も、翌日のお祭を楽しみに、皆さんハイスピードで、畦の草を鎌で刈り、田んぼにみっちり生えている草を取り除き、スッキリしました。2日目は、地曳き網を体験し、カツオやアオリイカのお刺身、潮汁、海鮮バーベキューを楽しみ、棚田と海を満喫した二日間となりました。(高桑 智雄)

棚田入門イベントやります！

# 棚田へ行こうよ！

棚田を知りたい！ 棚田に行きたい！  
棚田で体験したい！ 棚田米が食べたい！

最近棚田が気になっている方のための棚田入門講座です。  
いち早く新米も入手！ 棚田の新米を皆さんに味わっていただきます。



2011年5月  
丸の内さえずり館にて  
開催のイベントの様子

開催日 **9/20金 18:30~20:00**

お話 高桑 智雄 (棚田ネットワーク事務局長) 他

会場 自然環境情報ひろば  
**丸の内さえずり館**  
www.m-nature.info  
JR「有楽町駅」日比谷口  
地下鉄「有楽町駅」D2出口  
地下鉄「日比谷駅」A2出口徒歩2分

参加費 **500円**



棚田の新米  
試食会も  
やりますよ！！

■お問い合わせ・お申し込み 棚田ネットワーク Tel / Fax 03-5386-4001 e-mail : info@tanada.or.jp



## わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい！」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか？一緒に考えませんか？ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう！

会員になると！

会報誌「棚田に吹く風」(年4回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

○個人会員  
維持会員 1口1万円(1口以上)  
一般会員 4,000円  
応援会員 3,000円  
学生会員 2,000円

### 法人会員を募集しています！

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費

○法人会員  
1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。(詳細はお問い合わせください)

編集部から

「昔ながらのお米作り体験」でお馴染みの松崎町石部地区で、今年3年ぶりに「大地曳き網まつり」が復活しました。私達も、草刈り・草取りのイベントにあわせて参加したのですが、日頃、棚田でしか見ない保存会の皆さんが、漁船に乗り、魚を網ですくっている姿は、まさに「水を得た魚」でした。保存会の皆さんは、元漁師さんなのです。

山の棚田と海の漁を同時に体験する事で、山と海のつながりをあらためて実感しました。お米を主食として、山の幸と海の幸を少しずついたたく「和食」の原点がまさにここにある、森と棚田と海の調和がありなす食文化は日本人の誇りでもあり、世界に誇れるものですね！

### ホームページのぞきを見て!

棚田ネットのWebサイト  
イベント情報、ブログ等  
随時更新中!!



http://www.tanada.or.jp



2013年 夏号 Vol.89

発行 NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023  
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号  
Tel / Fax 03-5386-4001  
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp  
郵便振替口座 : 00100-7-151565